

〔百練抄五〕永長元年二月廿二日、上皇河○白 郁芳門院子○ 臨幸前太政大臣師實○藤原 京極策、有十種

供養事、翌日有和歌管絃之興

〔百練抄六〕保延元年十月十一日、上皇羽○鳥 臨幸前大相國忠實○藤原 宇治別業號小松殿新造、又見十三代要略

〔百練抄八〕嘉應元年三月廿三日、上皇白河○後 自入道大相國清盛○平 福原亭還御、高野御歸路、入御彼所

有千僧供養事、爲御結緣也、承安元年十月廿三日、太上法皇白河○後 建春門院后○後白河 御幸入道太

政大臣清盛○平 福原別墅、有船遊事、遊女賜祿、十一月一日、御入洛、治承三年三月十八日、上皇白河○後

幸入道大相國亭、安藝伊都岐島小巫翻廻雪之袖、爲叡覽也、

〔玉海〕養和元年七月十七日辛卯、晚頭定能歸來、昨日法皇白河○後 密々幸前幕下宗盛○平 六波羅策、御馬御

半御裝束、殿上人裝束、其外種々有御引出物等云々、御供親宗資盛等許也、他人一切不參、午始渡御、

申刻還御云々、世人有所云歟、然而無事還御、

〔皇帝紀抄後鳥羽〕建久九年七月廿八日、上皇鳥羽○後 御幸攝政基通○藤原 宇治亭、翌日有勸賞、

〔百練抄四〕天福元年七月十七日、今日相國教實○藤原 吉田水閣仙院堀○後 臨幸、藻壁門院后○後堀 同

臨幸、御輿、

〔帝王編年記後深草〕實治元年二月廿七日、上皇嵯峨○後 御幸前大相國實氏○藤原 西園寺亭、有御遊、

〔古今著聞集和歌〕實治元年二月廿七日、西園寺の櫻盛なりけるに、御幸なりて御覽せられけり、お

とゞ氏○實 さまゝ御おくり物を奉られけるうち、五代帝王の御筆をまゐらせらるゝとて、

つたへさく聖の代々の跡みてもふるさをうつすみちならはん

御返し、

まらざりしむかしに今やかへるらんかしこき代々の跡ならひなば増鏡○又見

〔百練抄十六〕實治二年七月廿四日己巳、上皇嵯峨○後 承明門院后○後鳥羽 大宮院后○後嵯峨 御幸前太